

佐渡市小中学校における GIGA スクール構想について

佐渡市教育委員会 学校教育課

1 はじめに ～GIGA スクール構想とは～

これからの時代に向けた教育環境の整備や最適な教育を実現させるための構想で、現在政府主導で進められている施策です。

G I G Aスクール構想

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

これまでの
教育実践の蓄積

×

ICT

=

学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの
授業改善

(リーフレット) G I G Aスクール構想の実現へ (文部科学省)

GIGA スクール構想の実現により、学習活動の一層の充実を図り、新学習指導要領で示されている主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を図るというものです。

※GIGA スクール構想の GIGA とは Global and Innovation Gateway for All の略です。

2 GIGA スクール構想の目的

「問題を解決する力」は、これからの時代を生き抜く子供たちにとって、大切な力です。「言われたことができる」、「書いてあることがやれる」ではなく、「何をどのようにするのか」を自分で考え、試行錯誤しながら解決していく力を、子供たちに学校教育で育てることは、コロナ禍、技術の急速な進展、変わる社会情勢によって将来の見通せない現状の中、急務となっています。この「何をどのようにするのかを自分で考える力」は、一斉指導、詰め込み型の一方通行の教育だけで身に付けることはできません。「何をどのようにするのかを自分で考える」経験を、授業の中で積んでいく必要があります。

わたしたちも、日々の生活で、問題解決を繰り返しながら、この力を身に付けてきたはずですが、この日々の問題解決を、わたしたちは家庭や職場などあらゆる場所で、コンピュータやインターネットを日常的に活用して行っています。暇をつぶしたいとき、今日の献立に困った時、初めての場所に行くとき、仕事で書類をつくるとき、音楽を聴いて気分を換えたいときなど、手元の情報端末をツールとして使って、物事の大小を問わず、時に



は失敗しながら、問題解決の経験を積み重ねています。しかし、日々日本の学校では情報端末のない状態で授業の問題を解決する経験を積み重ねていました。これは世界的に見ても大変遅れており、日本は教育の情報化後進国と言えるのです。

そこで令和元年 12 月、国は新しい社会に生きる子供たちにとって、タブレット PC は鉛筆やノートと並ぶ必要不可欠な道具であるとし、学校における 1 人 1 台のタブレット PC の整備を行う「GIGA スクール構想」を決定しました。コンピュータを学習に使うことで、今まで以上に、個別に応じた教育、学びの共有、そして日常に近い問題解決の経験を、学校で深めることができます。GIGA スクール構想とは、全ての子供が、コンピュータを適切に活用して問題解決を行うことを学び、未来を切り拓く力を育てることを目的としています。



3 G I G Aスクール構想によってできること

	「1人1台端末」ではない環境		「1人1台端末」の環境
一斉学習	教師が大型提示装置等を用いて説明し、子供たちの興味関心意欲を高めることはできる	学びの深化	- 教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる →子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に 
個別学習	全員が同時に同じ内容を学習する（一人一人の理解度等に応じた学びは困難）	学びの転換	- 各人が同時に別々の内容を学習 - 個々人の学習履歴を記録 →一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能 
協働学習	意見を発表する子供が限られる		- 一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有 - 子供同士で双方向の意見交換が可能に →各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れられる 

（リーフレット）G I G Aスクール構想の実現へ（文部科学省）

今、佐渡市では高速ネットワーク環境の整備が終わり、児童生徒への 1 人 1 台端末の整備が完了しました。1 人 1 台端末をどの教科の授業でも使用することができます。これにより、これまで P C 教室に移動して行っていた学習活動が各教室で手軽に実施できるようになります。今後、活用の仕方が児童生徒や教員に定着し、その活用スキルの向上や、ICT 環境のより一層の充実に伴って、これまでよりも、より個に応じた学びを推進することができます。また、コンピュータやネットワークをいつでも利用することができるので、問題解決の選択肢が増え、学びが充実します。これまでの学習活動が、さらに多様化したり効率化したりし、より個別最適化した、深い学びが実現していきます。また、様々な教育活動の効率化が進み、教員の子供と向き合う時間の確保にもつながります。

1人1台端末を使うとこんなことができます！

●個に応じた学びが展開できます

段階別や習熟度別、認知の特性や考え方の種類など、個に応じた学びを推進できます。個に応じることで、子どもを学習から取り残さず、集中しやすい授業づくりを行います。

個の特性に応じた教材提示

授業中でも、最適な教材を選択し提示



ルビ・スロー再生など、
個に合わせて設定



習熟度に合わせた課題を
自動提示



クラウドサーバ内に
共有化された教材活用

●問題解決の選択肢が増え、学びが充実します

コンピュータやネットワークが認知や思考の補助を行います。問題を主体的・対話的に解決することを習慣化できます。

今まで自分だけでは
解決できなかった課題の解消



問題解決に
コンピュータを活用

映像視聴などで理解が深まる



インターネット・
マルチメディアを活用

俯瞰した理解、学びの連続



過去の自分（学習履歴）や地
域・異学年のデータ活用

●授業を効率化できます

いままでの、ちょっとした、でも積み重なれば大きかった時間のロスを減らします。生み出された時間で、授業をさらに進めたり、問題解決の時間を長くにとって充実させたりすることができます。

配付・回収に係る時間の削減

発表の準備時間の削減

導入・まとめの準備時間の削減



プリント課題などを
瞬時に一斉配信・回収



学級の全員の意見や考えを
リアルタイムに表示



ノートや作品を瞬時に
画像キャプチャ

4 教育用クラウドについて

G I G Aスクール構想では1人1台のタブレットP Cの環境における教育活動において、学習履歴等の保管ややり取りを「クラウド」と呼ばれる場所で行うことを基本としています。この考え方を「クラウドバイディフォルト」と言います。佐渡市では教育活動に公共クラウドサービスを活用するため、Microsoft 365 のアカウントを取得し、各小中学校に配布しました。

クラウドサービスを学習に活用すると、下図のようにデータ活用の仕方が広がります。これまで、文字や図表だけで紙に記録されている子供たちの学びの記録が、画像や音声、映像も残せたり、その記録をいつでも検索したりできるようになります。さらに、課題の提出をクラウドを通じて行ったり、遠隔においても先生とやりとりをすることができるようになったり、端末があればどこからでも、学習履歴を取り出し、確認、編集することができるようになります。



5 教育用クラウド利用の同意について

Microsoft 社の多くの製品や機能を使用するにあたり、個人データの提供が必要となります。Microsoft 社では、お子さんの製品の使用に際し、「保護者による同意または承認を提示する」よう定められています。これは、「同意しなければタブレット端末を使用することができない」ということではありませんが、上記にあるようなクラウドを活用した学びの記録の蓄積や、クラウド上での先生や友達とのデータのやり取り等のメリットを活かせなくなります。Microsoft 社の教育用クラウドは、ISO 規格(国際標準化機構によって作成される安全規格)を満たし、さらに J I S 規格(日本工業規格)も満たしており、国際的にも認められているクラウドです。多くの国や自治体、企業でも利用されており、教育用クラウドサービス上の個人情報の扱いについては信頼され安心して利用されています。G I G Aスクール構想を実現し、子供たちの学びを充実させるためにも、個人データの提供にご理解をお願いします。